

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

嬉野市

(都道府県：佐賀県)

1. 当該地域の情報 (2019年 4月現在)

地域の課題	訪日ブームを背景に、本市への交流外国人は増加傾向にある。それに伴い、観光面での外国人受入体制は次第に整えられて来た。しかし、従来から暮らす在住外国人へはまだ十分に目を向けきれておらず、本市から在住外国人への日常生活における様々な情報の発信は十分とは言えない状況である。特に、災害時における在住外国人の避難体制確立は喫緊の課題である。当プログラムを災害時における避難体制の観点も含んだ本市独自の日本語教育体制として確立したい。
在住外国人数 外国人比率	【人数】スタートアッププログラム 開始時(2017年4月):128人 → 2019年4月現在 158人 (+30名) 【比率】スタートアッププログラム 開始時(2017年4月):0.472% → 2019年4月現在 0.606% (+0.134%)
在留外国人の 状況	【主な国籍】 韓国、フィリピン、ベトナム、中国、ミャンマー、米国、インドネシア、ネパール、モンゴル、朝鮮 【在留資格】 技能実習2号口、技術・人文知識・国際業務、永住者、技能実習1号口、日本人の配偶者、家族滞在、特定活動、教育 【滞在年数・在留期間などの状況】 特別永住者および永住者が36.7%、技術・人文知識・国際業務及び技能実習が50.0%で全体の約86.7%を占めている。また嬉野市は温泉観光地であるため、技術・人文知識・国際業務でのホテル・旅館への就労が増加している。技能実習については、2号の口が増加し1号の口が減少していることから、1号口から2号口へ移行していることが考えられる。
在住外国人の 日本語教育の現状	数年前、本市において日本語教育は実施されたが継続されておらず、現在は実施されていない。当プログラムを足がかりに日本語教育体制の確立を目指している。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	市内在住外国人を貴重な人材と捉え、彼らが本市の教育、防災、観光そして経済の発展に寄与する多文化共生のまちづくりを進めることを目的としてきた。			
事業の概要	「カフェこくさいじん(日本語教育)」の活動を核として地元コーディネーター(=中心人物)の育成に努め、当市内在住外国人及び彼らに関わる日本人のニーズに即した日本語教育体制を創出した。また、当事業の実施期間内に年間20回程度の教室を市の施設において実施し、やさしい日本語教育をはじめ地元住民・文化とのふれあいを通して体験し、参加者の相互理解を深めつつ学びあうコミュニティを育てている。			
事業の対象期間	2019年4月～2020年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	「カフェこくさいじん(日本語教室)」が定期開催に繋がったことで、在住外国人の参加者が2名から約10名に増加した。この「カフェこくさいじん」では定例の日本語教室の他、地域のお祭り(土曜夜市、うれしカーニバル、秋まつり等)やイベント(人権フェスタ、忍者フェスタ、九州オルレ等)にも積極的に参加したことで在住外国人の存在を市民に知らしめることができ、教室をPRすることもできた。定例の教室では、ヒアリング調査からわかった外国人のニーズ(病院の受診について、緊急時の対応等)をテーマに進め、外国人のみならず日本人の参加者も勉強になったと好評であった。ボランティア・コーディネーターの育成については1回完結のセミナーを3回行ない、市民が多文化共生について考えるきっかけにはなったものの、日本語教室へレギュラーメンバーとしての参加にはまだ繋がっていないため、引き続き個別にアプローチを進めている。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	貞松 明子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット” 佐賀女子短期大学	サポーターズ担当 非常勤講師	市外の日本語教室との連携等
	有瀬 尚子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット” 久留米大学・佐賀市立本庄小学校	ビギナーズ担当 非常勤講師	市外の日本語教室の情報収集等
	武藤 典子	佐賀県立嬉野高等学校 佐賀県国際交流協会	非常勤講師 子どもサポーター	日本語教室でのファシリテーター、地域住民への周知等
	中野 暖久 笠原 千佳	嬉野市 観光商工課 嬉野市 観光商工課	主査 主事	日本語教室における学習環境の整備等 外国人を雇用する企業への対応、広報活動等
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院 日本語教育実践領域	代表	継続・新規(3年目)
	結城 恵	群馬大学 大学教育・学生支援機構 大学教育センター	教授	継続・新規(3年目)
	萬浪 絵理	公益財団法人 千葉市国際交流協会	委嘱日本語教育コーディネーター	継続・新規(3年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	<ul style="list-style-type: none"> 外部有識者であるアドバイザーの助言のもとコーディネーターとともに地域日本語教育スタートアッププログラム事業計画の検討及び検証を行う。 日本語教育に関する助言等： 佐賀県日本語学習支援「カスタネット」、日本語教師、佐賀県国際課 教室運営に関する助言等： かしま日本語教室、たけお日本語教室 防災教育、防災体制に関する助言等： 嬉野市総務課(防災担当課) 在住外国人の地域行事参画に関する助言等： 嬉野市市民協働推進課(地域コミュニティ担当課) 		
所属(担当課)	担当者名	職名	
佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	貞松 明子	サポーターズ担当	
佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	有瀬 尚子	ビギナーズ担当	
日本語教師	武藤 典子	教師	
佐賀県国際課	北御門 織絵	多文化社会コーディネーター	
かしま日本語教室	植松 芳幸	代表	
たけお日本語教室	山口 浩	代表	
嬉野市総務・防災課	井手 孝一	副課長	
嬉野市企画政策課	井上 親司	主任	

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	<p style="text-align: center;">「カフェこくさいじん(日本語教室)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを中心に教室の実施に向けて、日本語教室の内容として「標準的なカリキュラム案」を元に生活者としての外国人に必要な項目を日本語教室のテーマとして取り上げ準備・開催する。 ・ボランティア育成、教材作成： 佐賀県日本語学習支援「カスタネット」 			
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名	
佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	—	サポーターズ担当	貞松 明子	
佐賀県日本語学習支援「カスタネット」	—	ビギナーズ担当	有瀬 尚子	
かしま日本語教室	—	代表	植松 芳幸	
たけお日本語教室	—	代表	山口 浩	
佐賀県	国際課	多文化社会 コーディネーター	北御門 織絵	

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月	・コーディネーター会議開催 ・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・市報、Facebookによる情報発信	・今年度の取組内容検討 ・カフェくさいじん(日本語教室)運営	
2019年 5月	・アドバイザー、コーディネーター会議開催 ・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・技能実習生受け入れ企業へのヒアリング ・市報、Facebookによる情報発信	・SUP事業の振り返り、内容協議 ・SUP事業計画書の確認・検討 ・カフェくさいじん(日本語教室)運営	★今年度の事業計画について 検討 (SAdv、Adv2名派遣)
2019年 6月	・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・カフェくさいじん交流会in塩田 開催 ・市報、Facebookによる情報発信	・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・カフェくさいじん交流会in塩田開催	
2019年 7月	・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・技能実習生受け入れ企業へのヒアリング ・市報、Facebookによる情報発信	・カフェくさいじん(日本語教室)運営	
2019年 8月	・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・うれしカーニバル道踊り(地域イベント)に参加 ・技能実習生受け入れ企業へのヒアリング ・市報、Facebookによる情報発信	・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・うれしカーニバル道踊りに参加 ・コーディネーター研修 研修Ⅰ	
2019年 9月	・カフェくさいじん交流会in塩田 開催 ・アドバイザー、コーディネーター会議 開催 ・地域に開く地域づくり講座参加「観光日本語」(講師:結城Adv.) ・嬉野銘茶塾×カフェくさいじん協定書調印式 ・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・市報、Facebook、「ほっとステーション(市の制作番組)」による情報発信	・在住外国人に対する多文化共生 講座への参加依頼 ・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・カフェくさいじん交流会in塩田開催	★日本語教室活動の報告及び 今後の活動予定検討・助言 ★市内旅館関係者への地域 日本語教室の必要性の提言 ※「観光日本語」講演 (Adv2名派遣)
2019年 10月	・佐賀県国際フェスタin伊万里に出展 ・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・市報、Facebookによる情報発信	・カフェくさいじん(日本語教室)運営	
2019年 11月	・嬉野温泉秋まつり道踊り(地域イベント)に参加 ・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・アドバイザーによるカフェくさいじん特別教室(講師:萬浪Adv.) ・アドバイザー、コーディネーター会議開催 ・市内旅館を在住外国人と共に視察 ・市報、Facebookによる情報発信	・嬉野温泉秋まつり道踊りに参加 ・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・在住外国人と旅館との調整(視察) ・コーディネーター研修 中間報告会	★日本語教室活動の報告及び 今後の活動予定検討・助言 ★日本語教室模擬授業 ★市内旅館視察 (Adv2名派遣)
2019年 12月	・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・カフェくさいじん交流会in塩田 開催 ・カフェくさいじん茶話会(日本人向け講座) 開催 ・技能実習生受け入れ企業へのヒアリング ・市報、Facebookによる情報発信	・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・カフェくさいじん交流会in塩田開催 ・茶話会の打合せ、講師との調整	
2020年 1月	・視察研修「ハタラクラス群馬」(群馬県太田市) ・多文化共生のまちづくり講演会(講師:伊東Sadv.) ・アドバイザー、コーディネーター会議開催 ・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・市報、Facebook、「ほっとステーション(市の政策番組)」による情報発信	・視察研修に参加 ・カフェくさいじん(日本語教室)運営	★議会・行政への地域日本語 教室の必要性の提言 ※「多文化共生のまちづくり」 講演会 ★各地域の日本語教室の進め 方について意見交換 (SAdv、Adv2名派遣)
2020年 2月	・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・市報、Facebook、「ほっとステーション」による情報発信	・「ハタラクラス群馬」との連携、打合せ ・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・コーディネーター研修 研修Ⅱ →新型コロナウイルス感染症の感染 拡大防止のため中止	
2020年 3月	・カフェくさいじん(日本語教室)開催 ・カフェくさいじん交流会in塩田 開催(3/8) →新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 ・アドバイザー、コーディネーター会議 ・Facebookによる情報発信	・カフェくさいじん(日本語教室)運営 ・カフェくさいじん交流会in塩田開催 ・SUP事業報告書の確認・検討 ・来年度の「カフェくさいじん」の動きに ついて検討	(★)日本語教室活動の報告 及び今後の活動予定検討・ 助言 (Sadv、Adv2名とオンライン 会議を実施)

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	カフェこくさいじん						
外国人参加者について	[国籍]フィリピン69名, ベトナム53名, インドネシア28名, ミャンマー27名, エクアドル9名, 中国8名, 韓国5名, タイ2名, アメリカ1名 [属性]技能実習生や日本人の配偶者等が主な対象	参加者数 (内 外国人数)	受講者 202名 支援者 329名 (日本語指導者 0名、サポーター 0名)				
開催時間数	総時間 37.5 時間	内訳	1.0 時間 × 1 回 1.5 時間 × 20 回 2.0 時間 × 1 回 4.5 時間 × 1 回				
目標	嬉野地区で日本語教室を月に2回程度開催 塩田地区で日本語教室を年に4回程度開催						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2019年4月10日(水) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	9	・オリエンテーション	・アイスブレイクとしてインタビューゲームを実施。 (名前・出身・誕生日をインタビューした人数が多いと勝ち) ・この1年間、「カフェこくさいじん」でどんなことがしたいか、意見を出し合った。	コーディネーター2名 サポーター16名
2	2019年4月24日(水) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	9	・いろんな国のあいさつ ・学校について	・外国人参加者に自分たちの国(フィリピン、インドネシア、ベトナム、中国)のあいさつの言葉を教えてもらった。 ・進級・進学のためのシーズンのため、各国の学校について発表し違いを学んだ。(学校は何月から始まるか、等)	コーディネーター1名 サポーター9名
3	2019年5月13日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	5	・緊急時の通報、連絡について	・イントロダクションとして、日本の元号「令和」の意味を説明。 ・公衆電話の使い方、警察・消防への通報の仕方、災害用伝言ダイヤルの使い方を学んだ。	コーディネーター2名 サポーター17名
4	2019年5月27日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	3	・日本語ことば遊び	・しりとり、早口言葉、ことば遊び(ひらがなカードを使い、グループ毎にどれだけ多くの言葉が作れるか対抗戦)、かるたを実施。	コーディネーター1名 サポーター8名
5	2019年6月9日(日) 10:00~12:00	2.0	塩田公民館 視聴覚室 (塩田地区)	18	カフェこくさいじん 交流会in塩田	・アイスブレイクとしてインタビューゲームを実施。 ・フィリピン、ベトナム、ミャンマーの学校の特徴(日本との違い)をそれぞれ発表した。 ・最後は親睦を深めるため、じゃんけん列車を実施。	コーディネーター3名 サポーター17名
6	2019年6月10日(月) 19:00~20:30	1.5	EN TEA 事務所 (嬉野地区)	5	お茶について	・嬉野市の特産品である「うれしの茶」の生産者であり、緑茶・紅茶のブレンドとしても活躍する松尾俊一氏の事務所にて、お茶について学んだ。	コーディネーター1名 サポーター11名
7	2019年6月24日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	8	ベトナムについて	・受講者の1人であるベトナム人女性に講師役を務めてもらい、ベトナムの文化について紹介してもらった。	コーディネーター1名 サポーター7名
8	2019年7月8日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	8	・七夕について	・七夕について日本での風習を学び、各国でも七夕の風習があるのか話し合った。(ベトナムにも七夕がある) ・参加者全員で短冊に願い事を書き、七夕飾りを作った。 ・七夕飾りを施した竹(笹)はカフェこくさいじんのチラシと共に市民センターに約1ヶ月飾らせてもらった。	コーディネーター3名 サポーター15名
9	2019年7月22日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	5	・問診票 ・診療科目すごろく	・内科を受診する時を例に、日本語の問診票の書き方や体の不調に関する日本語を学んだ。 ・どこが痛いか、不調の内容でどの診療科目を受診するのか、すごろくで楽しく学んだ。	コーディネーター2名 サポーター11名
10	2019年8月2日(金) 19:30~20:30	1.0	嬉野市民センター (嬉野地区)	5	・うれしカーニバル 全体練習	・8月10日に開催される地域の祭り「うれしカーニバル」に「カフェこくさいじん」として踊りに参加するため、他の踊りの団体と共に練習に参加した。	コーディネーター2名 サポーター1名
11	2019年8月26日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	9	・生け花体験 (日本文化体験)	・受講者の家族が生け花の師範であることから、その方を講師として招き、日本文化の体験として生け花を実施。	コーディネーター3名 サポーター10名
12	2019年9月8日(日) 16:00~20:30	4.5	楠風館 (塩田地区)	36	・カフェこくさいじん 交流会in塩田	・嬉野地区と塩田区のそれぞれの日本語教室参加者を一堂に集め、懇親会としてBBQと手持ち花火を実施。 ・技能実習生を雇用する企業の代表も参加し、他の企業の技能実習生と話をしたり、事業主同士で意見を交換した。	コーディネーター4名 サポーター24名
13	2019年9月23日(月・祝) 19:00~20:30	1.5	嬉野中央 体育館 (嬉野地区)	6	・バドミントン	・4月のオリエンテーションで「やりたいこと」のひとつに挙がっていた、バドミントンを実施。	コーディネーター4名 サポーター9名
14	2019年10月14日(月・祝) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	7	・災害について	・8月末の佐賀県豪雨と9月に行われた多文化共生防災講座を受け、災害情報を外国人に伝えるロールプレイングを行い、非常持ち出し品の内容について話し合いを行った。	コーディネーター3名 サポーター7名
15	2019年10月28日(月) 19:00~20:30	1.5	市民センター 中央体育館 (嬉野地区)	9	・「くんち」について ・道踊り練習	・九州北部の風習「くんち」について学び、嬉野市の「くんち」(秋まつり)で行われる道踊りに参加するため、踊りの練習を行った。	コーディネーター2名 サポーター4名
16	2019年11月11日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	15	・旅行について	・当市のアドバイザーである萬浪氏による模擬授業。(会話を中心とした日本語教室、誰でもできるファンリテーション) ・アイスブレイク、Google翻訳の使い方 ・旅行をテーマに自分の経験や要望について会話をを行った。	コーディネーター5名 サポーター13名
17	2019年11月25日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民センター (嬉野地区)	11	・買い物について	・前回の模擬授業を受けての実践。 ・各国の買い物のルールについて会話を実施。 ・テーブル毎に作りたいカレーを考え、その材料を買いにいくロールプレイングを行い、最後に自分たちの作るカレーはどんなものか発表してもらった。	コーディネーター3名 サポーター11名

18	2019年12月8日(日) 10:00~12:00	1.5	塩田公民館 視聴覚室 (塩田地区)	7	・カフェくさいじん 交流会in塩田	・軽食を食べながら会話を楽しんだ。 ・イラストのカードとそのもの名前(日本語)のカードを使った 神経衰弱。 ・ビンゴ大会(出た数字は日本語で参加者に読んでもらう)	コーディネーター2名 サポーター10名
19	2019年12月23日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民 センター (嬉野地区)	7	・年賀状を書こう	・各国のお正月の迎え方について会話を行った。 ・年越し蕎麦の振る舞い ・日本語で表面・裏面共に年賀状を書いた。	コーディネーター3名 サポーター17名
20	2020年1月13日(月・祝) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民 センター (嬉野地区)	8	・書初め体験 (日本文化体験)	・市内の書道家を講師として招き、書初め体験を実施。 ・書道の道具の紹介があった後は、「とめ」「はね」の練習を 行ない、清書を行った。	コーディネーター2名 サポーター13名
21	2020年1月27日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民 センター (嬉野地区)	5	・うれしの茶につ いて (銘茶塾)	・「カフェくさいじん」と連携協定を結んだうれしの茶の生産 農家の団体「嬉野銘茶塾」を招き、美味しいお茶の淹れ方、 茶葉の摘み方を学んだ。	コーディネーター5名 サポーター12名
22	2020年2月10日(月) 19:00~20:30	1.5	嬉野市民 センター (嬉野地区)	6	・嬉野市と 太田市について ・似ているけれど 意味が違う言葉	・当市のアドバイザーである結城氏がファシリテーターを務める 群馬県太田市の日本語教室「ハタラクラス群馬」とのビデオ レターの交換(受講者に発話させ能動的にさせる進め方) ・太田市と嬉野市を比較しながら、嬉野市の特徴を学んだ。 ・受講者の母語で音が似ているが意味の異なる言葉を探した。	コーディネーター3名 サポーター6名
23	2020年2月24日(月・休) 13:30~15:00	1.5	嬉野市民 センター (嬉野地区)	1	・箏の体験 (日本文化体験)	・嬉野市出身で現在は市外に住む箏の師範とその生徒を 講師として招き、箏の演奏の鑑賞と、実際に箏を弾く体験 を行った。	コーディネーター3名 サポーター21名

【主な活動】



9/8 カフェくさいじん交流会in塩田
在住外国人36名、日本人28名、
計64名が参加



11/25 カフェくさいじん
ベトナムのカレーの作り方を、イラストを描き
材料のカードを使って説明している



1/13 カフェくさいじん
書初め体験

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
嬉野銘茶塾×カフェくさいじん 連携協定 締結	2019年9月25日(水)	佐賀県のさが中山間協働応援隊事業の一環で、うれしの茶の品質・知名度の向上を目指す茶農家の団体「嬉野銘茶塾」と嬉野市地域日本語教室「カフェくさいじん」が連携協定を締結。嬉野銘茶塾はカフェくさいじんにて市の特産品であり日本の文化でもあるうれしの茶(日本茶)の歴史や美味しい淹れ方をレクチャーし(2020年1月27日実施済)、カフェくさいじんは新茶のシーズンに嬉野銘茶塾の茶畑で品評会に出品する茶葉を1枚1枚手摘みする作業を手伝う(2020年4月19日、26日実施予定)
地域活動 (まつり等への参加)	①2019年8月10日(土) ②2019年11月3日(日・祝)	①うれしカーニバル ②嬉野温泉秋まつり(くんち) ①、②共に、地域住民・団体と一緒に道踊り(踊りを披露しながら町を練り歩く)に参加
国際フェスタ in 伊万里	2019年10月6日(日)	日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、近隣市である伊万里市で開催された国際フェスタにブース出展した。ブースでは「カフェくさいじん」の活動を紹介するパネル展示のほか、連携協定を結んだ嬉野銘茶塾の方々と共に、世界各国のお茶とうれしの茶の振る舞いを行った
カフェくさいじん茶話会	2019年12月9日(月)	支援者(日本人)のみを集め、スクールカウンセラーを招いて「傾聴」について学ぶ。これまで日本人参加者に対して「外国人(日本語がわからない人)への接し方」を説明することなく日本語教室を進めてきたため、日本人(日本語がわかる人)たちだけで話を進めて、外国人が蚊帳の外という状況が時々見受けられていた。そういった状況をなくし、外国人参加者をもっと会話に入りやすくするために実施した茶話会後参加者からは、「相手が心を開いて自然に話してくれる雰囲気を作るには上手に聞く能力が必要だと再確認できた」「普段“聴いて”いるつもりがただ“聞いて”いたということに気づいた」「自分が好きな事柄について話すと元気になれる事を実感した」との声が挙がった

【主な活動】



嬉野銘茶塾×カフェくさいじん
連携協定 協定書調印式



うれしカーニバル
道踊りへの参加の様子



カフェくさいじん茶話会
「傾聴」について、外国人の方々が話しやすい
環境をつくるにはどうすればいいか意見交換中

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画通りに遂行できた。
成果	<p>・昨年度、地域日本語教室「カフェくさいじん」を定期開催してきた結果、参加者(受講者、支援者共に)が定着し、安定的に教室を開催することができた。</p> <p>・「カフェくさいじん」の内容は受講者だけでなく支援者も一緒に楽しめるものを目指したことで、受講者は新たに入国した在住外国人を誘って教室に訪れるようになり、支援者は「教える、支援する」という心構えではなく「外国の文化を知りたい、外国人の友人を作りたい」という多文化共生の意識を持って参加してくれるようになった。</p> <p>・ある受講者からは、「カフェくさいじんに参加するようになって友達ができて、嬉野市で生活することが楽しくなった。技能実習の在留期間が終わりいったん母国に帰るが、また絶対嬉野市に戻ってくるつもりだ」との声が寄せられ、文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業で期待される効果『近隣住民とのコミュニケーションが円滑になり外国人が孤立することが少なくなる』ということが成果として挙がっていると実感した。</p> <p>・「カフェくさいじん」の外国人参加者に対して外国語のアナウンスの録音を依頼されたり、地域行事への参加を依頼されたり、地域団体との連携協定を締結するなど、「カフェくさいじん」が地域において必要な団体と認識されてきた。</p> <p>・スタートアッププログラムを実施する前は、行政として在住外国人の存在を一部しか把握しておらず、「彼らからの相談がない＝在住している外国人も少ないし、特段問題もない」と認識していた。しかし「カフェくさいじん」を通して多くの外国人が嬉野市で生活しているということがわかり、そして個々とのつながりを持つことで彼らは一様の生活を行っているわけではなく、それぞれ異なった環境と文化のもと嬉野市で生活していることがわかった。さらに在住外国人やその家族・同僚から個人的な相談を受けることも増え、問題がないのではなく顕在化していないだけで、外国人が嬉野市で生活することに大なり小なりの問題・悩みが生じていることがわかった。</p> <p>・「カフェくさいじん」が市民にとっての多文化共生・国際交流のきっかけとなり、外国人にとって社会参加の第一歩となっていると感じた。</p> <p>・情報発信(毎月の市報での告知、Facebookを活用した教室開催の告知と災害時の外国人向け情報発信 等)の強化により、新たな参加者の獲得と「カフェくさいじん」の周知につなげることができた。実際「市報・Facebookを見て初めて参加した」という方が今年度は10名近くいた。</p>
地域の関係者との連携による効果	<p>・市の特産品である「うれしの茶」を栽培し、品質・知名度向上に努める団体「嬉野銘茶塾」と連携協定を結ぶことで、地域との結びつきを確固たるものにすることができた。また特産品への理解を深めることで、在住外国人の当市への愛着心を育むきっかけもなった。</p> <p>・技能実習生を雇用する企業と定期的に顔を合わせることで、技能実習生を抱える悩みを聞くことができ、また技能実習生を雇用する他の企業へ「カフェくさいじん」を紹介してもらうことができた。</p> <p>・「カフェくさいじん」の講師として地域の人々を招いたことで、「カフェくさいじん」の内容の充実と魅力の向上に繋がり、また講師のつながりから「カフェくさいじん」の周知と新規参加者の獲得につなげることができた。</p> <p>・「カフェくさいじん」の受講者と共に旅館を視察した際や多文化共生防災講座に参加した際には、外国人の目線での気づきを旅館関係者や防災担当者へ提言することができた。</p>
コーディネーターの主な活動	<p>①ニーズの調査(8H) ②体制整備のための調整(43H) ③人材育成のための調整(6H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(70H) ⑤教材作成に向けた調整(29H) ⑥その他(29.5H) (具体的な内容:イベント、視察 等)</p>
アドバイザーの主な助言	<p>[内容]</p> <p>・会話を中心とした教室にするのなら、各国・各人に共通するテーマを事前に予告しておいて、次回はそれぞれの国のことを教えてと伝えとそれぞれテーマについて自分の意見を考えてくる。</p> <p>・嬉野銘茶塾との連携協定は、お茶の手摘み作業の手伝いという単発のイベントで終わらせず、手摘みの準備の回・手摘み作業の回・終わった後の振り返りの回と繋げていくべき。他のテーマも同様。</p> <p>・(当市では観光商工課がスタートアッププログラムを実施することを踏まえて)市内の事業者のもとを参加者と共に回り、店舗や商品の紹介文を母語と日本語で考えて、それをインバウンドに対するPRに繋げていけば、カフェくさいじんの周知に繋がる。</p> <p>[運営]</p> <p>・参加者の実績をつけ分析や振り返りを行い、それらを踏まえて中長期の目標を立て計画的に進めることが大事。そういったものを残さないと担当者が異動となった場合、立ち行かなくなる。</p> <p>・教室に初めてきた参加者が戸惑わないように、「カフェくさいじんがこんなところであり、こんなことに意識してください」といった内容をまとめてチラシにして配ったり、Facebookに掲載すると都度研修するといった手間が省け、参加者みんなが共通認識をもって活動に参加できる。</p> <p>[人材]</p> <p><講師・ファシリテーターの確保について></p> <p>・お茶や消防や観光などいろんな団体を巻き込んでいくと、外国人の参加者もその方々を身近に感じて交流の輪が広がっていく。 <支援者の確保について></p> <p>・毎回参加することを前提としない。「この日とこの日は必ず来てほしい」と伝えたり、「次のこのテーマについて準備を少し手伝ってほしい」と伝えることで、参加を促す方法もある。</p>

<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在主要なコーディネーター2名で教室運営を進めており、その負担が大きいため余力がなく、塩田地区での開催などが難しい状態。来年度は当番制で嬉野地区で過去に行った内容をブラッシュアップして塩田地区で開催する予定だが、元教員など、コーディネーター(ファシリテーター)に適した人材の発掘が必要である。また、市外からのコーディネーターの派遣も視野に入れたい。 ・今年度は参加者集めのためレクリエーション要素の強い内容(日本文化の体験や交流会)が多かった。今後はそれらばかりにならないよう、防災や健康、ゴミの仕分け等、日本で生活するために必要な内容も充実させなければならない。 ・中長期的な教室の継続のためには、当市にとって必要な活動(事業)であると広く認識してもらう必要がある。さらに予算の確保と支援者の確保が欠かせない。予算については来年度はさまざまな補助金を活用しつつ市の予算で運営を行う予定であるが、将来的にはコンソーシアムの設立等も視野に入れる必要がある。また支援者の確保については、まずは認知度を上げ、そして参加を待つばかりではなく、こちらから個別に声を掛けて協力を依頼していかなければならない。 ・外国人住民とその家族・同僚からの相談を受けた際の対応が、当課(観光商工課)のみでは対応できない場合も想定される。その際に関係各所と円滑に連携するためには事前に協力体制を構築しておく必要がある。 ・インターネットに精通していない参加者もいるため、情報発信がFacebookに偏りすぎると受け取る情報に格差が生じ、疎外感を生んでしまうことも懸念される。急な予定変更等は参加者の中心的人物から情報を回してもらい、ショートメールを活用する等、参加者への情報面のフォローも検討する必要がある。
<p>今後の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度からは市の事業として教室運営を進める。令和2年度に関しては、自治体国際化協会の「多文化共生のまちづくり促進事業」の助成金と市の予算で運営を行う予定である。 ・コーディネーターと協議した内容を基に、県国際課、県国際交流協会、佐賀県日本語学習支援“カスタネット”、大学などの関係機関と共に中長期的な日本語教室運営計画を策定する。 ・嬉野地区での日本語教室(月2回程度)の実施に加え、令和2年度は塩田地区での日本語教室(月1回程度)を試行する。将来的にはこの塩田地区の日本語教室を、先行して進めている嬉野地区の日本語教室と同等のものにし、嬉野市内の日本語教室を2拠点体制にする。 ・企業関係者との関係作りと技能実習生等の学習者の掘り起こし、そしてニーズ調査を継続して行う。 ・県内の日本語教室との連携強化を図り、先進地視察・情報交換を行う。 ・市報、Facebook、ケーブルテレビなどによる情報発信の充実と市内外でのPR活動に積極的に参加する。 ・防災に関して、日本語教室にて防災をテーマとして扱い知識を共有すると共に、市の防災計画を検討する際に在住外国人の意見を反映できるような仕組みを作る。(例:日本語教室で集約された在住外国人の意見を市の防災担当課へ提言する、防災訓練に在住外国人にも参加してもらう、等)

本件担当 : 嬉野市役所 観光商工課 観光グループ